北京五輪出場で記念祝賀会

選手らの健闘称える

400人以上が列席

北京オリンピックに出場した本学の在学生・卒業生の選手・コーチを迎えての記念祝賀会が10月10日、新宿・京王プラザホテルのエミネンスホールで行われ、佐伯弘治理事長、若林克彦学長、川野一成中学・高等学校長をはじめ、学生・教職員や来賓など400人以上が列席した。

会場には、柔道男子の石井慧選手、内柴正人選手、シンクロナイズドスイミング・チームの川嶋奈緒子選手、レスリング男子の和田貴広コーチに加えて、同日午後に行われた学内報告会・パレードには間にあわなかった鈴木桂治選手も駆け付け、大きな拍手と歓声のなか、5人が登壇した。

なお、会場には多くの報道関係者が集まり、テレビカメラなどが向けられるなかで、会は盛大に行われた。

祝賀会は、はじめに佐伯理事長が五輪に出場した選手・監督・コーチの一人ひとりに労いの言葉をかけ、「今後も母校のために、日本のために、そしてスポーツを通じて世界の友好平和のために力を尽くしてほしい」と言葉を贈るとともに、会場に集まった参加者に対して謝辞を述べた。続いて若林学長が、選手・コーチらを支えた多くの関係者に感謝を述べたうえで、選手らに対して「皆さんは本学の誇り。今後も大いに精進して、さらなる活躍に期待している」と健闘を称え、「お疲れさま、感動をありがとう」とあいさつした。

続いて、来賓の日本選手団団長を務めたJOC（日本オリンピック委員会）の福田富昭常務理事、文部科学省の尾崎春樹大臣官房審議官、山谷えり子参院議員がそれぞれ祝辞を述べたあと、選手らが一人ひとりが報告のあいさつを行い、鍵田忠兵衛衆院議員（本学昭和54年度政経卒）の乾杯のあいさつで祝宴が催された。

歓談の中で、選手らは来場者からの記念撮影やサインなどの求めに、食事を口にする間もなく応じていた。また、越智隆雄衆院議員、渡辺幸子多摩市長の祝辞や祝電が披露されたあと、岡利幸同窓会会長から褒賞金がそれぞれ手渡された。

選手らを代表して内柴選手が謝辞を述べ、鈴木選手とのエピソードとともに、「今後とも国士舘スポーツの応援をお願いしたい」とあいさつすると、会場は大きな拍手に包まれた。

最後に、選手の恩師である川野校長が、それぞれのエピソードを交えながら「社会のために、母校のために尽くすことが国士舘の精神、伝統。この精神を絶やすことなく、これからも国士舘の人材を育てていく」と閉会のあいさつを行い、盛会の内に散会した。

北京五輪での健闘を称える記念祝賀会に出席した鈴木、内柴、石井、川嶋の各選手と和田コーチ（左から）

選手、コーチの談話

■石井慧選手　金メダルを獲得した瞬間は、ほっとした。はじめてのオリンピックで、いい経験をさせてもらった。これまで味わったことのない緊張感を味わうことができ、生涯の思い出になった。自分の試合で楽しんでもらえたのなら、本当にうれしい。

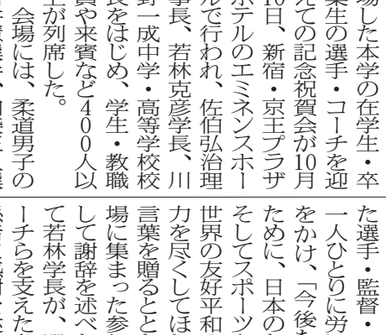
■内柴正人選手　アテネ・北京五輪の2大会で金メダルを獲得できたのも、国士舘で日頃練習を続けてきた成果だと考えている。長くともに戦ってきた鈴木選手のお陰で金メダルを獲得できた。今後も引き続き現役を続けていくので、応援をよろしくお願いしたい。

■鈴木桂治選手　期待された結果を残せず申し訳なかった。今回、選手団の主将を務めたことが結果に影響したわけではない。主将の大役は、簡単に出来るものではない栄誉なので、次のロンドン五輪に出場できるのであれば、男としてぜひ再び務めてみたい。

■川嶋奈緒子選手　アテネ五輪の銀メダルに続く今回は、残念ながらメダルを獲得できなかったが、皆さんの声援を力に、最後まで精一杯泳ぎきることができた。大舞台で自分の満足できる演技ができたこと、納得のいく試合だったこと、すべてに感謝したい。

■和田貴弘コーチ　レスリングは、近年女子の活躍が顕著だが、今回、男子チームの強化に携わり、フリースタイルで銀メダルと銅メダルを獲得できた。アテネ五輪の成績を上回ることができたことが嬉しい。今後も国士舘と日本のレスリングに貢献できるように励みたい。

キャンパスでも報告会



学内報告会が10月10日、世田谷キャンパス8号館前特設ステージで石井慧、内柴正人、川嶋奈緒子の3選手と和田貴広コーチが参加して開催され＝写真、学生・教職員など約1200人が集まった。

最初に石井選手が「国士舘最高」と盛り上げ、選手らがそれぞれ報告を行った。

9月25日には、高等学校のアリーナで報告会が開催され、石井、内柴、川嶋の3選手が参加、後輩にあたる中学・高等学校の生徒に、応援の感謝を述べた。

同日午前には、五輪開催地東京招致イベント交流会として都立光明特別支援学校に赴き、生徒との交流会も行われた。

また、石井選手は9月2日、世田谷キャンパス学長室で、若林克彦学長、佐伯弘治理事長に金メダルを報告した。会場には、多くの報道陣が詰め掛け、カメラに囲まれた喜びの報告となった。

さらに9月13日、体育学部創設五十周年記念事業として川嶋選手の帰国報告会が開催された。川嶋選手は、鶴川キャンパス内のプールでソロ演技を披露し、学生のほか、地域の小中学生など約370人を魅了した。

足立選手がシンクロ「3冠」

スイスオープン2008

チーム日本代表メンバー。前列右端が足立選手

シンクロナイズドスイミングのスイスオープン2008大会が7月9日から13日まで、スイス・チューリッヒで行われ、足立夢実選手（体2年・東京シンクロ所属）がソロ、チーム、フリールーティンコンビネーションに出場し、3種目すべて優勝という快挙を成し遂げた。

毎年、国際大会に出場している足立選手だが、ソロでの出場は初めて。「試合自体は楽しめたが、ソロの代表に初めて選ばれたのでプレッシャーがあり、種目数も多い分、練習も厳しくて大変だった」と感想を語った。

また、8月6日から9日まで東京辰巳国際水泳場で行われた日本シンクロチャレンジカップ2008ではソロで優勝、チームでは2位の成績をおさめた。さらに、5月に行われた日本選手権では日本代表の原田早穂選手に次ぐ2位となっており、ソロ種目の成長が目覚ましい。

今後の目標としては「ソロは五輪種目にないので、チームでの五輪出場を狙っていきたい」という。日本シンクロ界期待の星の、さらなる活躍を期待したい。

石坂選手が女子個人を制覇

全日本学生体操選手権

第62回全日本学生体操選手権大会が9月2日、埼玉・くまがやドームで行われ、女子個人に出場したアテネ五輪代表の石坂真奈美選手（体4年）＝写真＝が58・000点で優勝した。また女子団体は石坂選手を中心に、6人での堅実な演技を見せ、準優勝を果たした。女子体操部は今年、1部に昇格し、今大会は1部所属になってから初のメダルとなった。

「今まで北京五輪を目指し競技を続けてきたが、今回は代表から漏れ、すごく悔しい思いをした。その気持ちをバネにインカレに臨んだので良い結果を出せたのだと思う」と石坂選手は振り返った。

個人予選はミスも響いて、北京五輪代表の黒田真由選手（中京大）に次ぐ2位での通過だったが、決勝では見事逆転優勝し、底力を見せつけた。

現在4年生の石坂選手は11月に行われる全日本選手権が学生最後の試合となる。「最上級生としてチームを引っ張って行かなければいけない立場だし、今までの実績や、選手としてのプライドもある。きっちりこなして良い成績を残したい」と決意を語った。

長崎選手がインカレ3連覇

全日本学生トランポリン

第43回全日本学生トランポリン選手権大会が8月29日から31日まで、北海道・小樽市総合体育館で行われ、長崎峻侑選手（体3年）＝写真＝が個人とシンクロナイズド（金沢学院大・伊藤正樹選手とペア）に出場し、2冠を達成した。長崎選手はこれでインカレ個人3連覇。

試合後、長崎選手は「3連覇する自信はあったが、4連覇するまではまだ満足できない。優勝の喜びより4連覇への期待の方が大きい」と語った。同競技のインカレ3連覇達成者は過去にいるものの、4連覇はまだいない。「絶対に自分が達成してみせる。今回を逃したら夢を断たれるので、今までになく本気で追い込んだ」と強調した。

長崎選手は「TBS系の人気視聴者参加番組「SASUKE」や舞台マッスルミュージカルに出演するなど、幅広い活動を続けてきたが、今後は競技生活に集中していくという。「4連覇はそう簡単なことではない。ロンドン五輪も視野に入れ、一日一日を無駄にせず努力していきたい」と前人未踏の記録達成へ照準をあわせていた。

十種競技で右代選手が優勝

天皇杯日本学生陸上

天皇杯第77回日本学生陸上競技対校大会が9月12日から14日まで、東京・国立競技場で行われ、男子十種競技に出場した陸上競技部主将の右代啓祐選手（体4年）＝写真中央＝と同砲丸投に出場したルーキーの堤雄司選手（体1年）が見事優勝した。また、各大学間での対校得点は総合得点が52点で過去最高の6位に入賞したほか、混成競技が1位、フィールド競技が2位と大健闘した。

右代選手は「主将として30人の部員を引っ張っていかなければいけないプレッシャーは大きかったが、陸上競技部史上最高記録を出した年の主将を務められたことを光栄に思う」と話した。卒業後は本学大学院に進学し、競技生活を続けていきたいという。今後は4年間培ってきたものを後輩に伝え、自分の競技生活だけでなく、周囲の力になりたい」と抱負を述べた。

また、2位の蓬田和正選手（体3年）を抑えて初優勝した堤選手は「絶好調で試合に臨めた。4連覇は1年生で優勝した自分しかできないことなので、ぜひ挑戦していきたい」と決意を語った。

女子リレーでBチームV2

OWSジャパンオープン

オープンウォータースイミング（OWS）・ジャパンオープン2008館山大会が7月20日、千葉・北条海岸で行われ、女子の大学対校1キロ×4人リレーで国士舘大学Bチームが2大会連続2回目の優勝を果たした（昨年は台風のため中止）。

OWSは、海や河川など自然環境をコースとする競泳で、今回出場したメンバーは全員、同競技の大会に初出場だった。普段はプールで競泳やシンクロナイズドスイミングの練習に励んでいる選手らの中には「海で真剣に泳いだのは今回が初めて」というメンバーも。優勝という結果に「まさかと思った」「絶対無理だと思った」と笑顔で喜びと驚きを爆発させた。

同種目の男子は国士舘大学Aチームが2位に入った。

優勝した女子Bチーム（中段）

◇メンバー◇
女子Bチーム
谷口　由季（体1年）
中野　理香子（理1年）
加賀谷　優希（体3年）
武田　つかさ（体1年）
男子Aチーム
塩野　直（政3年）
井上　新（体2年）
佐瀬　隼平（体1年）
高橋　真（体1年）

長谷川・石川ペアが2連覇

全日本ビーチバレー大学選手権

第20回全日本ビーチバレー大学男女選手権（ビーチバレージャパンカレッジ2008）が8月8日から10日まで、兵庫・須磨海岸特設コートで行われ、男子は国士舘大学Aチームが優勝、女子は国士舘大学Bチームが準優勝した。男子チームの優勝は4度目で、長谷川翔・石川雄一郎選手ペアは昨年に続き2連覇。

長谷川・石川両選手は7月にドイツで行われた世界ユニバーシアード大会に出場し、実力をつけてきた。石川選手は「世界を相手に戦って、自分の甘さを知った。良い経験になったし、自信にもつながった」と今大会の勝因を語った。また、長谷川選手は「2連覇を目標に練習してきたので優勝できてよかった」とホッとした様子だった。

◇メンバー◇
男子Aチーム
長谷川　翔（体4年）
石川　雄一郎（体3年）
女子Bチーム
佐藤　奈津子（体4年）
小瀬澤　真澄（体4年）
優勝した男子Aチーム（後列中央）と準優勝の女子Bチーム（前列中央）

世界バトントワリング

三上知絵選手が準優勝

姉妹ペア　初出場で夢叶える

第29回世界バトントワリング選手権大会が8月7日から10日まで、アイルランドのリマリックで行われ、チアリーディング同好会エルブズの三上知絵選手（文4年／Te・Groove所属）と姉の友理選手（玉川大4年／同）が日本代表としてシニアペア部門に出場、参加16組中、見事準優勝を果たした。また、日本代表チームは17年連続18回目の国別総合優勝を獲得した。

両選手は「ずっと憧れていた夢舞台で、夢のような時間を過ごせて、本当に幸せだった。支えていただいた皆さんに感謝しています」と初出場、準優勝の感想を話した。

予選を3位で通過した三上ペアは、決勝でノードロップの見事な演技を披露し、フランスに次ぐ2位の座を獲得した。

「2人のリカバリーがうまくいき、ノーミスで演技できたことが勝因」と知絵選手は分析する。また、何より自分たちの今までの想いを、すべてぶつけられたという。

両選手は3歳頃からバトンを始め、さまざまな大会でタイトルを獲得してきた。「精神的にも鍛えられたし、バトンをやっていなかったら今の自分たちはなかった。バトンを通して色々な人たちと出会えたし、成長することができた」と知絵選手は約20年にわたる競技生活を振り返った。

そして三上姉妹は今大会をもって競技生活の引退を決意。これについて2人は「後悔はない」と言い切る。「今までのバトン人生の中で、世界大会での演技が一番納得できるものだった。これからはバトン競技をやってきたことを自信にし、また違う目標に向かってがんばりたい」と決意を新たにした。

三上知絵選手（左）と姉の友理選手（左から2人目）＝写真提供：日本スポーツバトン協会

マスコミを追う

●「インドネシア更紗のすべて」展が京都市左京区の細見美術館で開催。戸津正勝政経学部教授のコレクションから約200点を展示する、と掲載。（2008年8月12日埼玉新聞15面）

●「人物交差点」欄で、奄美大島で研究を行った岸本健理工学部教授が、熱エネルギー工学の視点から「温暖化社会になると、奄美や南西諸島の生活、産業が日本のモデルになる」と指摘した、と掲載。（2008年8月26日南海日日新聞8面）

●若者が地域生活を体験する国交省主催の「地域づくりインターン事業」研修で、本学大学院1年の鳥木伸一郎さんら学生2人が、北海道沙流郡平取町のふれあいセンターで体験報告し、廃校となった旧農糠小中校舎の活用策を提案した、と掲載。（2008年8月26日北海道新聞（地方版）28面）

●本学理工学部の健康医工学系の学生10人が、静岡市駿河区の静岡健康管理センターなどを訪れ、最先端の医療機器や情報管理技術に触れた、と掲載。（2008年8月28日静岡新聞21面）

●静岡県内の全12信用金庫は共同で、県内の全小学生を対象に金融、経済教育に乗り出す。この教材を教育行政に携わった北俊夫体育学部教授が監修した、と掲載。（2008年8月28日日本経済新聞（静岡版）6面）

●ウェブサイト評価会社のゴメス・コンサルティングは、全国の大学が開設しているサイトの充実度を評価した「大学サイトランキング」トップ50を発表し、国士舘大学は9位に位置した、と掲載。（2008年8月28日日経産業新聞2面、同9月10日読売新聞（大阪）33面）

●「高校グラフィティー―東京2」は、男子柔道の名門として国士舘高等学校を紹介。監督の岩渕公一教諭は、大学生との合同練習を取り入れていることについて「自分より強い者と戦うことで、立ち向かう精神を養っている」と話す、と掲載。（2008年9月1日読売新聞13面）

●3年後の世界遺産登録をめざす岩手・平泉の文化遺産について、岩手県教育委員会と文化庁は、7月のユネスコ世界遺産登録延期を受けて、推薦書の再提出の検討を開始。新たに海外の遺産保護に造詣の深い本学の岡田保良教授ほか1人が委員に就任した、と掲載。（2008年9月11日岩手日報2面、毎日新聞（岩手版）21面、同12日読売新聞27面、朝日新聞27面、同23日河北新報3面）

●北京五輪金メダリストの石井慧選手と斉藤仁監督が、毎日放送制作のドラマ「パンダが町にやってくる」（11月3日から放送）への出演が決定し、12日に大阪市内の柔道場で撮影に臨んだ。出演シーンは、12月18日放映予定、と掲載。（2008年9月11日読売新聞（大阪版）34面）

●「ひと」欄で、戸津正勝政経学部教授を紹介。8月、インドネシア「大統領の友人」として日本で唯一選ばれ、伝統の「バティック」のPR役として、知識と愛情が買われ招待された、と掲載。（2008年9月26日朝日新聞2面）

●「こどもと育つ」欄で、北京五輪柔道金メダリストの内柴正人選手の父親ぶりを紹介。息子がオリンピックでの金メダルをとても喜んでくれたエピソードなどを掲載。（2008年9月30日日本経済新聞夕刊17面）

活躍するスポーツ

《大学・大学院》
【柔道】
●アジアジュニア柔道選手権大会（7／8）
男子100㌔超級　優勝　百瀬優（体1年）
同100㌔級　3位　寺島克興（体1年）
●第40回全日本ジュニア柔道体重別選手権大会（9／13・14）
男子100㌔超級　優勝　百瀬優
同100㌔級　優勝　寺島克興
同73㌔級　3位　鈴木誠（体1年）
【杖道】
●第53回全国杖道大会（8／30・31）
男子種目別・クラブ　優勝　奥雄太（政3年）
【レスリング】
●全日本学生レスリング選手権大会（8／30・31）
男子フリースタイル60㌔級　3位　小田裕之（体2年）
同120㌔級　3位　デニスロバーツ（体3年）
【ライフセービング】
●第23回全日本学生ライフセービング選手権大会（9／26・27）
男子1㌔ビーチフラッグ×3ビーチリレー　2位　国士舘大学
【一輪車】
●全日本一輪車競技大会（8／30）
グループ演技部門・高校生以上の部　優勝　棚網愛結（文2年）
《高校・中学》
【柔道】
●金鷲旗高校柔道大会（7／21～24）
男子団体　2位　国士舘高校
●第57回全国高等学校柔道大会（8／9）
男子団体　2位　国士舘高校
男子81㌔級　2位　住谷仁志（3年）
同90㌔級　優勝　春山友紀（3年）
●第40回全日本ジュニア柔道体重別選手権大会（9／13・14）
男子100㌔超級　3位　上杉亮太（3年）
●第39回全国中学校柔道大会（8／19～22）
男子団体　3位　国士舘中学校
男子90㌔超級　優勝　遠藤翼（3年）
●全日本選抜少年柔道大会（9／21）
男子団体　優勝　国士舘中学校
【剣道】
●全国中学校剣道大会（8／21～23）
女子団体　3位　国士舘中学校
【パワーリフティング】
●第26回全日本高等学校パワーリフティング選手権大会（8／2）
同82・5㌔級　2位　音田靖幸（3年）
男子60㌔級　2位　小木野翔大（3年）
【自転車】
●第43回全国高等学校定時制通信制自転車競技大会（8／3・4）
ロード個人（30㌔ﾒﾘ）　優勝　富樫泰章（2年）
【アーチェリー】
●全日本社会人フィールドアーチェリー選手権大会（9／14・15）
男子個人ペアボー　優勝　佐々木信一（教員）

【訂正】473号6面「北京五輪」の記事で、女子柔道日本代表監督の日蔭暢年さんの出身地は「岩手県」でした。訂正してお詫びいたします。